

「岐阜県農業チャレンジ！ 瓢箪イルミおもてなしプロジェクト」

クラブ員代表者会議 東海ブロック 岐阜県立岐阜農林高等学校
園芸科学科 3年 福島 留衣
流通科学科 2年 河合琥太郎
動物科学科 2年 鎌倉 由奈

1 活動の動機と目的

岐阜県学校農業クラブ連盟には7校の単位クラブが所属しています。私たちは2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピックに向けて県下7校が協力し、一生の思い出に残る活動が何かできないか協議をしてきました。その結果、岐阜県の瓢箪文化と農業クラブ活動をオリンピックの会場に訪れた国内外の多くの方へ知ってもらうことを目標に、瓢箪生徒実行委員会を平成29年に立ち上げました。そして岐阜県養老町特産の瓢箪を使ったグリーンシェルフとイルミネーションをオリンピック会場に設置することで、選手にエールを送り、来場者をおもてなしする「岐阜県農業チャレンジ！瓢箪イルミおもてなしプロジェクト」をスタートさせました。

瓢箪をアイテムとして使用するきっかけになったのは、大垣養老高校の「瓢箪クラブ秀吉」が町おこしのために企画した瓢箪イルミネーションです。このイベントが大好評で、その活動内容は高く評価され、第5回イオンエコワンングランプリ2016で内閣総理大臣賞を受賞しました。そこで、この取組を県下農業高校生徒全員で行い、東京オリンピック・パラリンピックの会場に瓢箪イルミネーションを装飾して大会を盛り上げたいと考えました。また、オリンピック会場では夏場の避暑対策が大きな課題となっていたため、イルミネーションを飾る棚に瓢箪を這わせたグリーンシェルフも一緒に設置することに決めました。

平成29年 瓢箪実行委員会 発足



2 瓢箪の栽培とグリーンシェルフの検証(平成29年)

県内7校で瓢箪を栽培しグリーンシェルフの試験栽培を行った結果、灌水管理が大変なだけでなく、病気にかかりやすいことや8月には葉が枯れ始めることから、瓢箪はグリーンシェルフに向かないことが分かりました。そこで、以前より交流があった「鈴田峠農園」と協働し、パッションフルーツを使ったグリーンシェルフに切り替えることにしました。「鈴田峠農園」さんは、パッションフルーツの移動式緑化装置の特許を取得しており、東京のマラソンコースにグリーンシェルフを設置する計画でした。



【グリーンシェルフ栽培試験の様子】 【イルミネーション用に栽培した瓢箪】 【瓢箪の洗い作業の様子】

3 イルミネーション用瓢箪の栽培(平成30年～令和元年)

次に、イルミネーションに使用する瓢箪の栽培を行いました。県下7校が協力し、2年間で約2,500個の瓢箪を収穫できました。秋に収穫した瓢箪は、穴をあけて約1か月間水につけた後、表面の皮を水で洗い流し、中の水と種子を取り出して乾燥させます。瓢箪を水につけると、強烈なおいがするのでこの作業が一番大変でした。乾燥後、瓢箪に穴をあけ、イルミネーションの電飾に取り付けて完成です。各校のクラブ員の協力により、無事に瓢箪イルミネーションを完成させることができました。

4 瓢箪イルミネーションの設置(令和2～3年)

グリーンシェルフはオリンピックのマラソンコースに設置する予定でした。しかし、マラソンコースが急遽東京から札幌へ移転となり、イルミネーションを設置することができなくなってしまいました。瓢箪イルミネーションはすでに完成しており、先輩から引き継いできたプロジェクトをここであきらめるわけにはいきません。急遽、新たな設置場所を探したところ、新国立競技場のすぐそばに全国の青年の活動を支援している「日本青年館」があることがわかりました。その施設は、本校卒業生が役員をされており、その方を通じて施設内に瓢箪イルミネーションを設置するために協議の機会を設けていただくことができました。ところが、交渉を開始した矢先、新型コロナウイルス感染症が流行し始め、「日本青年館」との協議は1年以上ストップしてしまいました。オリンピックの開催も1年の延期となり、先の見えない行動制限の中、このままでは本当にイルミネーションを飾ることができなくなってしまうと考え、無理を承知で今年の春に「日本青年館」に連絡したところ、協議を再開していただけることになりました。しかし、協議の結果、これまで準備してきた瓢箪イルミネーションでは設置する許可をいただくことはできませんでした。

そこで、施設内ホテルの正面入口に新しい瓢箪を使ったイルミネーションを再提案することで、もう一度検討していただけることになりました。オリンピック開催まで残り4ヶ月しかありません。そこで、これまでイルミネーションの設置でお世話になっていた「株式会社ジョイアス」さんにアドバイスをいただき、新しいデザインを提案したところ、無事に設置の許可をいただくことができました。しかし、本当に大変なのはここからでした。新しい瓢箪イルミネーションを2ヶ月で完成させないといけないため、県内7校の全面協力を得ながら作品の制作に取りかかり、何とか新しい作品を完成させることができました。

イルミネーションの設置日には私たちも東京へ向かい、一緒に取り付け作業を行う予定でしたが、緊急事態宣言発令中のためどうしても東京に行くことができず、ジョイアスさんに設置を一任することになりました。

いくつもの困難を乗り越え、令和3年7月16日、ついにオリンピック会場のすぐそばに瓢箪を使ったイルミネーションを展示することができました。展示された約2ヶ月間、東京を訪れた国内外の多くの方々に農業クラブ活動と岐阜の瓢箪文化について知っていただくことができました。



【清流をイメージした瓢箪】



【日本青年館に展示した瓢箪イルミネーション】



5 瓢箪イルミネーションで地域貢献(令和元～3年)

私たちは東京での設置を目指す一方で、県内のクラブ員や地元岐阜の方々にも作品を見てもらえる機会を作りたいと考えました。そこで、3年前から始まった岐阜市主催の「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」事業に参加する機会をいただきました。約5,000球の電飾と1,500個の瓢箪を使ったイルミネーションを黄金の織田信長像を臨むことができる大階段に11月から約3ヶ月間、岐阜駅を利用する一日約6万人の方たちに見ていただくことができました。装飾デザインは自分たちで考案し、イルミネーションを設置するときは県内から農業クラブ員の代表が集まって一緒に作業を行いました。点灯式にも招待していただき、岐阜市長からもお礼の言葉をかけていただきました。昨年度は、これまでの作品の他に、東京で誰も見ることができなかった日本青年館に飾った瓢箪イルミネーションの作品を岐阜駅の2階に設置し、自分たちも点灯している様子を見ることができ感無量でした。



【JR岐阜駅の大階段に設置した瓢箪イルミネーション】

6 活動の成果

- ・コロナ禍でも行える貴重な活動の機会となった

コロナ禍で多くの農業クラブ行事が中止になる中、瓢箪イルミネーション事業は各単位クラブが一緒になって取り組める貴重な活動の機会になりました。また、希薄になりかけていた各校とのクラブ員同士の繋がりを県下7校が一丸となって一つの目標に取り組むことで深めることができました。

- ・全国の人たちに農業クラブをPRできた

本プロジェクトの活動をとおして、農業高校のことや農業クラブのことを4年にわたり

県内外の多くの人たちに知ってもらうことができました。東京に瓢箪イルミネーションを飾った時には、作品が日本農業新聞の一面に掲載され、テレビなどでも紹介されました。他にも農業クラブの全国機関紙である「リーダーシップ」に取組を寄稿し、活動の内容を全国のクラブ員にも知ってもらうことができました。

- ・ **イルミネーションを使って地域に貢献できた**

地域のイルミネーション事業に参加することで地域を盛り上げるだけでなく、コロナ禍で頑張っている人たちへ瓢箪の灯りでエールを送ることができました。

- ・ **産官学民連携で課題を克服できた**

どうすれば目標を達成できるのかをみんなで考え、その過程で自分たちでは解決が困難な課題は、地域の方や専門分野の方達と協力することで解決し乗り越えることができる貴重な経験をすることができました。産官学民と連携することで、課題を解決できるだけでなく、成果を何倍にも高めることができました。

7 今後の展望

- ・ **J R 岐阜駅前のイルミネーション事業に継続参加**

岐阜市主催の「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」事業は昨年度で参加を終了する予定でしたが、設置したイルミネーションは大好評で、岐阜市からは今年もぜひ設置してほしいと参加依頼がありました。そこで本校が引継ぎ、継続して取り組めないか代議委員会を開き話し合った結果、本校が継続して活動を続けていくことに決まりました。

- ・ **情報共有の大切さ**

活動場所までの移動距離や新型コロナウイルスの影響で県下7校が足並みそろえて活動することができない場面が多くありました。また、進捗情報をなかなか共有できず、事務局だけで話が進んでしまい、他の学校が取り残されしまう状態が何度もありました。今後、岐阜県連盟で活動をするときは、全クラブ員への情報の共有を最優先で取り組んでいきたいと思います。今は ZOOM などオンラインシステムが普及しているので、代議員会だけで活動報告をするのではなく、定期的にオンラインで情報を共有しながら、各校が最新の情報を共有できるように工夫していきたいです。

8 まとめ

私たちはこのプロジェクトを通して、様々な分野の「産・官・学・民」の方々と連携しながら活動できたことで、不可能と思われた目標を達成することができました。そして岐阜県連盟に所属する県内7校が一つになり、地域や様々な業界の方々の支援を受けながら困難を乗り越えていくことで多くの人たちとつながる機会となり、その結果多くの人たちに農業クラブの魅力を伝えることができたのでよかったです。今回の経験を生かし、これからも「産・官・学・民」と連携しながら岐阜県の農業クラブ活動を盛り上げ、岐阜県連盟学校農業クラブ連盟の伝統を築いていきたいと思っています。

